



平成23年(2011年)6月20日 国の重要文化財に指定

優れたデザインと技術による、わが国最初期の美術館建築

聖徳記念絵画館は明治神宮外苑の中心施設で、明治天皇の事績を描いた絵画を展示する美術館である。明治神宮造営局の実施計画により大正15年に竣工した。

建物の中央に、ドーム屋根を戴く吹抜の大広間において左右に絵画室を配置した構成で、外観は花崗岩による重厚な仕上げとし、内部は大理石やモザイクタイルで壮麗に飾る。

聖徳記念絵画館は、わが国最初期の美術館建築で、直線を強調した造形表現により、記念性の高い重厚な外観意匠を実現しており、高い価値が認められる。また、ドームのシェル構造や絵画室の採光などに先駆的な技術が取り入れられており、わが国の建築技術の発展を知る上でも重要である。

〔平成23年4月19日 文化庁報道発表資料「重要文化財(建造物)の指定について」より抜粋〕

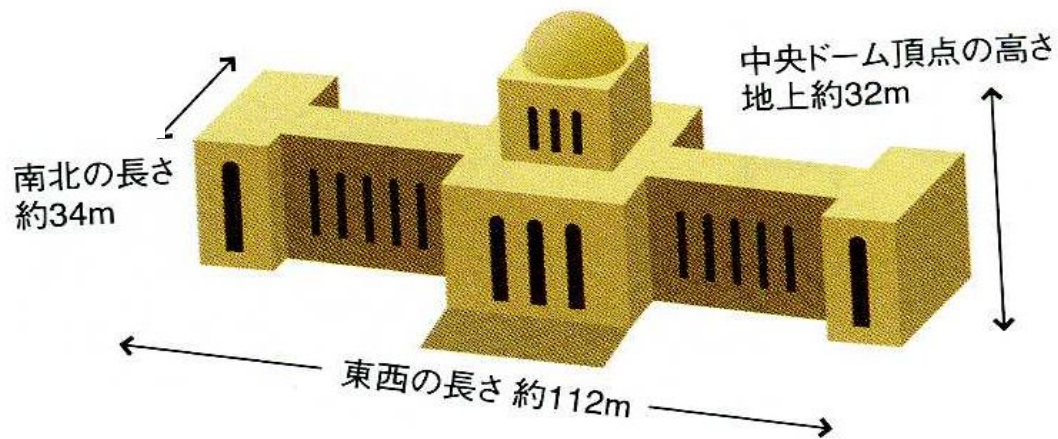


外装に用いられている
花崗岩は岡山産の万成石
近くで見ると、石のひとつ
ひとつのピースが大きく
巨岩が贅沢に使用されて
います

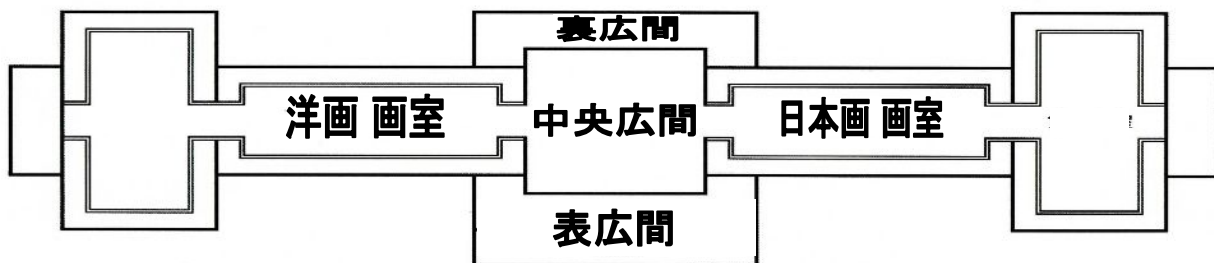


絵画館へは、こちらの正面大階段より、ご入館ください

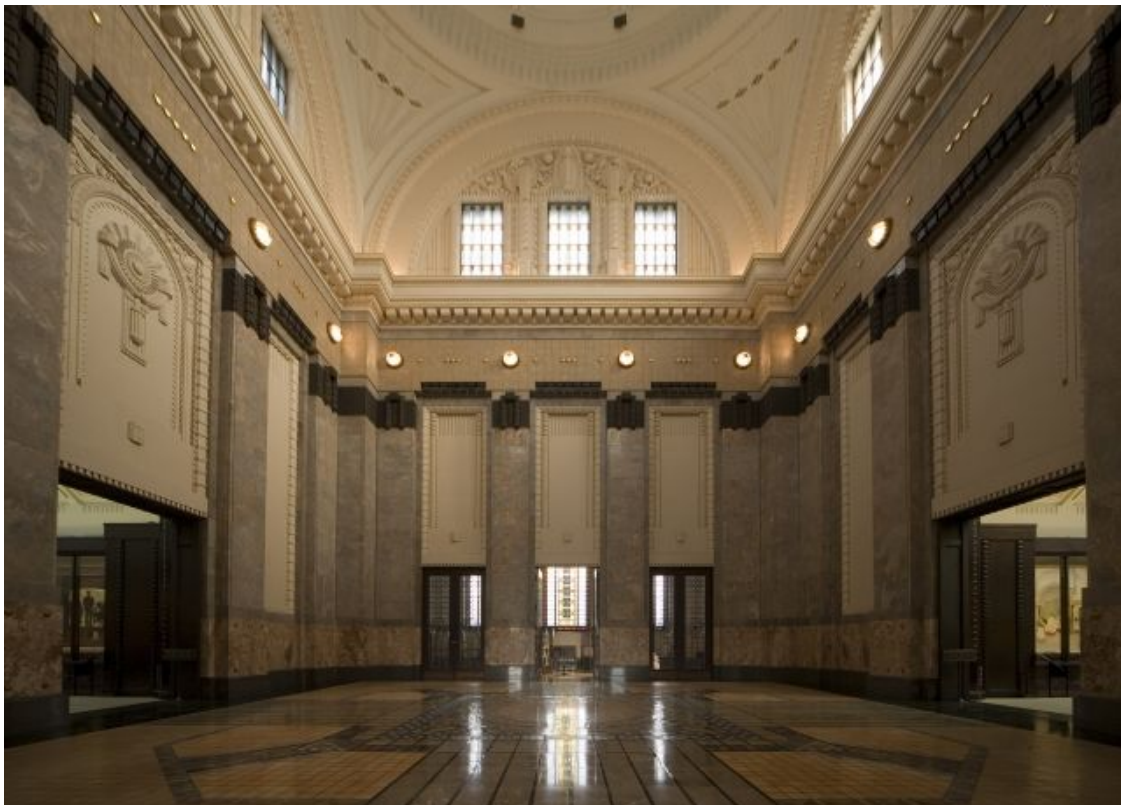
鉄筋コンクリート造りの建物として建設当時最大規模を誇りました



絵画館内部平面図



中央広間

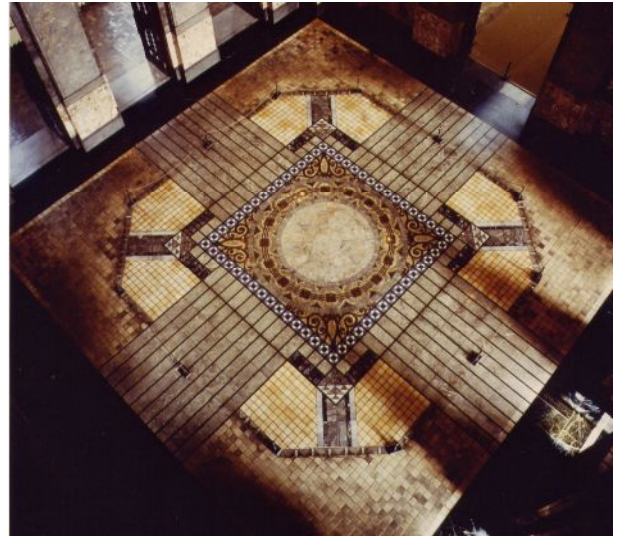


館内の柱や床には、大理石がふんだんに使用されています

中央広間頂部は鉄筋コンクリート造ドーム型シェル
直径は当時最大級の15m



大理石とモザイクタイルを組合せた床



大理石は岐阜県美濃赤坂産(全体の56%)をはじめ、山口、愛媛、群馬、福島、岡山などから集められました

絵画室はすべて頂部からの自然採光

